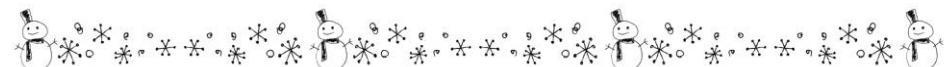




一年間、ありがとうございました！

2月を迎える今年度のめだか教室は、①は残り2回、②は残り1回となりました。このめだかよりも今号が最終号となります。思い起こせば、初めのうちはまだまだ自分だけ、または自分とおうちの方とだけの世界にいた子どもたちが、だんだんと職員やおともだちとの関わりを楽しむようにと変わってきました。表現の幅がぐっと広がり、体つきもしっかりしてきて…。子どもって一年で目を見張るような成長を見せますね。それだけ、日々いろんなことを学びとつていているのだと思います。子どもたちの大切な時間を一緒に過ごせたことをとても嬉しく思います。保護者のみなさんは、落ち着きがなかったり、輪から外れて違うことを始めたりするお子さんの姿に、どうすればよいのかと悩んだり、来る意味が見出せなかったりしたこともあったかと思います。月に1~2回と少ない回数ですので、余計に。それでも、めだか教室に参加されている時には、焦らなくていい、待ってみようという姿勢をもっておられたなあと感じています。“待つ”ってとってもエネルギーがいること。でも、それはお子さんにとって、とても大きな意味をもつ関わりだと思っています。おうちの方にとってもめだか教室が、“焦らず待てる場所”になっていたなら嬉しいです。一年間、いろいろとご協力いただき、ありがとうございました。



子どもたちはこれから一層、親から離れた「自分」を形作っていきます。親には、ますます“待つ”“見守る”ことが求めできそうです。

3歳児では、エピソードがつながりストーリーが成立します。生活面では、「手を洗ってからご飯を食べる私」「ご飯を食べて歯を磨く私」というストーリーができるため、親がうるさく言わなくともある程度のことはできます。あそびでも生活面でも、自分のストーリーを表現することで「ヤッター」「デキター」と自分が大きくなったと感じ始めます。「階段を上れるから、今度は

階段飛び降りてみよう」と新たな挑戦も始めます。大人がしていること、大きな子がしていること、してみてできるようになったという自信が、「デキルもんね」という言葉にあふれてきます。できることが増えてくると、ついに大人は高望みをしがちです。

でも、「できる」を意識することは「できない」を意識すること。「できるもんね」と大きなことを言っていたそばから「できないもん」と情けないことばが漏れてしまったりします。うまくできそうもない時、ストーリーを思い起こせない時、「やってー」「赤ちゃんだもん」などのことばも出てきます。でもまだ生まれてから3年余りしかたっていないのですからできなくても当たり前。「できないかも」と不安になっても当たり前。自分で挑戦しようと思えるまで待ってあげることも必要です。できていたことをしなくなる「赤ちゃん返り」も見られる時期です。子どもの好きなこと、自信をもってできること大切にして、見守りましょう。4歳近くなれば、仲間の中で新たな挑戦が始まるのですから。

～ 中略 ～

この時期の反抗は、自分のストーリーを理解しないことへの抗議としての反抗です。「大きくなったら立ったまま外を見たい」のに、「座れ」と言われるから「座らない」と床に寝そべってしまうという反抗です。ファミレスに行けば必ずおもちゃを買ってもらえるはずなのに、「今日は買わない」と叱られたから「帰らない」と泣きわめくという反抗です。2歳児とは違って、子どもが「イヤだ」という時に、「どうして？」と尋ねると、自分のストーリーを説明してくれるのですが、大人が一方的に否定するため、「したかったのにー」と反抗するのです。子どもは日々の生活の中で「こうなるはず」というストーリーをもっています。いつもとは異なる手順が発生する時は、あらかじめ大人が子どもにストーリーの変更を申し出る必要があるのです。子どもは自分のシナリオの主演俳優です。監督が勝手にシナリオを変えたら怒って当然です。主演俳優だからこそ、「できるかな」と演技が不安にもなるのです。そう考えると健気に見えてきますよね。「できる自分」を子どもは「私」「ボク」「俺」と、主演俳優らしく呼ぶようにもなっていきます。子どもがステキなシナリオを書くことができるよう、監督は大きな眼差しで見守ってください。

～『子どものかわいさに出あう』近藤直子著より～

※次回のご案内

- めだか教室① 2月10日 サーキット
3月10日 クッキング
めだか教室② 2月24日 クッキング

ある方のみ、エプロン、三角巾、マスクをご持参ください。材料費100円をいただきます。

※来年度、外来教室を継続される方には3月中に案内が送付されますので、お待ちください。来年度は「りんご教室」になります。

継続されない方も、困ったり悩んだりしたらいつでも相談して下さいね。